

市政記者クラブ 様

令和7年7月10日（木）
健康福祉局健康部感染症対策課
（結核以外）楫屋、近藤 電話：972-2631
（結核）竹田、原田 電話：972-2633

名古屋市感染症発生動向調査（令和7年6月分患者発生状況）について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 6月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年6月	令和6年6月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	23件	22件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	7件	2件
◆四類感染症 ・E型肝炎 ・A型肝炎 ・日本紅斑熱 ・レジオネラ症	1件 1件 1件 7件	0件 0件 0件 6件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎 ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・梅毒 ・破傷風 ・百日咳	1件 1件 1件 1件 1件 3件 4件 3件 1件 33件 1件 116件	2件 1件 1件 0件 0件 6件 0件 7件 2件 27件 0件 0件
◆五類感染症（定点把握疾病：第23週～第26週（6月2日～6月29日分）） ・報告数の多い疾病は①伝染性紅斑（197件：前月比2.07倍）、②ヘルパンギーナ（34件：前月比3.78倍）となっています。		

2 トピックス

《腸管出血性大腸菌感染症》

腸管出血性大腸菌感染症は出血を伴う腸炎で、血清型によってO157、O26、O111などに分類されます。感染すると潜伏期間（平均3～5日）を経過した後に、大腸菌が産生するベロ毒素により、主に腹痛、水様性下痢及び血便を引き起こします。また、重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発した場合は、死亡する事例も報告されています。

主な感染経路は、菌に汚染された食品等を食べた場合のほか、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分に行わなかった場合などに、ヒトからヒトへ感染させることがありますので、次のことに注意してください。

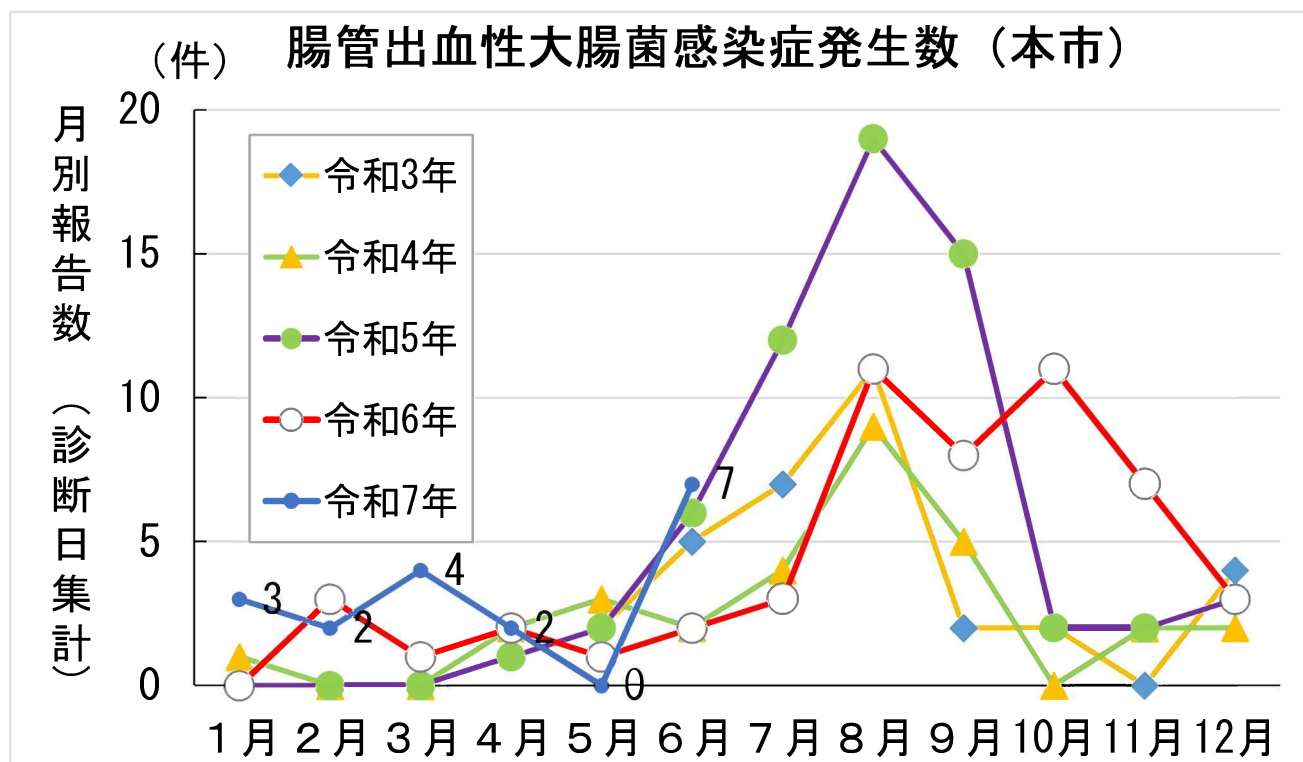
＜予防するには＞

- ・お肉の生食は避け、中心部まで十分に加熱（75℃で1分間以上）して食べてください。
- ・生野菜などはよく洗い、必要に応じて殺菌をしてください。
- ・調理器具は食材ごとに使い分け、よく洗い、熱湯などで消毒してください。
- ・調理前、食事前、トイレ後、おむつ替えの後は、石鹸等で十分に手を洗ってください。
- ・トイレのドアノブなど菌に汚染されやすい場所は、こまめに消毒をしてください。

＜早めの治療を＞

- ・自分の判断で薬を飲んだりせず、すぐに医師の診察を受けてください。
- ・特に子どもや高齢者の健康状態には、日頃から気をつけてください。

例年、夏期に患者の発生数は多くなりますが、季節に関係なく発生するため、年間を通して注意が必要です。



3 病原体分離情報（令和 7 年 6 月分）

1. 令和 7 年 5 月 17 日発症、その後市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、名東区在住、59 歳、男性の検体（結膜拭い液：5 月 19 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られている D 種アデノウイルスの一つであるアデノウイルス 37 型（AdV37）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 7 年 5 月発症日未記載、市内医療機関を受診し、流行性角結膜炎と診断された、市外在住、3 歳、女兒の検体（結膜拭い液：5 月 22 日採取）から、上気道炎、角結膜炎、胃腸炎などの原因となるアデノウイルスの中でも、流行性角結膜炎を起こすことが知られている D 種アデノウイルスの一つであるアデノウイルス 54 型（AdV54）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 7 年 5 月 31 日発症、その後市内医療機関を受診し、手足口病と診断された、瑞穂区在住、0 歳 6 ヶ月、男児の検体（咽頭拭い液：6 月 2 日採取）から、主に小児の呼吸器系疾患や感染性胃腸炎などを引き起こすことが知られているヒトパレコウイルス 5 型（HPeV-5）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和 7 年 5 月 21 日発症、その後市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、名東区在住、8 歳、女兒の検体（尿：5 月 27 日採取）から、乳幼児期に感染し口唇に水疱（口唇ヘルペス・ヘルペス性歯肉口内炎）ができることがあり、持続感染することが知られているヒトヘルペスウイルス 1 型（HSV-1）を遺伝子検査法により検出・同定しました。
5. 令和 7 年 6 月 13 日発症、その後市内医療機関を受診し、流行性耳下腺炎と診断された、港区在住、3 歳、女兒の検体（鼻汁：6 月 17 日採取）から、乳幼児期にほぼ全員が感染し、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、20～30%くらいに気管支炎や肺炎などの下気道症状を起こすことが知られているRS ウイルス B 型（RSV-B）を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 急性呼吸器感染症サーベイランス病原体情報

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスが開始されました。

2025/5/16～2025/6/26 受付分（被検者 計 71 名）

検出されたウイルス	合計
AdV	12
HRV/EV	35
HPIV3	23
HPIV4	1
RSV-A	1
RSV-B	4
SARS-CoV-2	1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3
<i>Bordetella pertussis</i>	1
計	81

＊同一患者での重複感染例あり

AdV：アデノウイルス，HRV/EV：ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス，HPIV：ヒトパラインフルエンザウイルス，

RSV：RSウイルス，SARS-CoV-2：SARS コロナウイルス 2

Mycoplasma pneumoniae：肺炎マイコプラズマ，*Bordetella pertussis*：百日咳菌

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者から分離した百日咳菌の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和7年 第23週～第26週（6月2日～6月29日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフルエンザ （＝鳥インフルエンザ及び 新型インフルエ ンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス感 染症※	RSウイルス感 染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （＝インフルエンザ菌、 肺炎球菌、髄膜炎菌、 葡萄球菌として同定され た場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスで あるものに限り）	インフルエンザによる入 院患者	新型コロナウイルス感 染症※による入院患者		
千種	0	8	1	7	8	46	12	1	15	5	1	1	526	0	1								632	
東	2	19	0	11	20	3	2	0	13	3	0	0	775										848	
北	0	21	0	2	3	31	0	0	1	0	0	1	704	0	0	0	0	1	0	0	0	5	769	
西	2	19	1	35	31	40	1	2	57	5	29	1	2,321	0	0								2,544	
中村	2	33	4	0	0	31	0	0	1	0	0	0	458	0	1								530	
中	0	7	0	0	2	20	0	0	7	0	0	0	732										768	
昭和	2	16	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0	106	0	0	0	0	3	0	1	0	4	145	
瑞穂	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	0	1								98	
熱田	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	123	0	0								126	
中川	2	31	6	37	23	71	1	7	21	2	2	0	1,108			1	0	4	0	0	0	5	1,321	
港	2	18	0	0	15	17	2	3	5	0	0	0	261										323	
南	1	23	1	3	8	41	0	2	0	2	1	0	1,216	0	8								1,306	
守山	1	7	0	0	12	30	3	0	27	2	0	1	822										905	
緑	4	26	1	0	12	126	3	5	36	4	0	2	842	0	0								1,061	
名東	4	26	0	2	50	32	3	0	9	1	1	0	1,080	0	5								1,213	
天白	2	7	0	2	7	14	0	1	4	1	0	0	409	0	1								448	
合計	25	272	14	100	191	514	27	21	197	25	34	6	11,570	0	17	1	0	8	0	1	0	14	13,037	
前月	83	323	34	31	175	805	33	21	95	37	9	4	15,557	1	16	2	1	7	0	5	15	33	17,287	
前月比	0.30	0.84	0.41	3.23	1.09	0.64	0.82	1.00	2.07	0.68	3.78	1.50	0.74	0.00	1.06	0.50	0.00	1.14	－	0.20	0.00	0.42	0.42	
昨年同月	44	1,419	219	111	655	493	38	1,424	7	40	295	9	－	0	14	3	4	15	0	0	2	52	4,844	

* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数に変更されました。（4月6日までは70定点、4月7日からは50定点）
※ 病原体がペーコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。
は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和7年 6月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性器 感染症 クラミジア	性器 ヘルペス 感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌 感染症	黄色ブドウ球菌耐 菌性	肺炎球菌耐 菌性	緑膿菌耐 菌性 感染症	
千種	12	0	4	2				18
東								
北	23	10	3	7	3	0	0	46
西	1	5	0	0				6
中村	6	0	4	3				13
中	50	47	14	20				131
昭和	12	11	3	4	4	0	0	34
瑞穂	1	0	0	0				1
熱田								
中川	7	4	5	4	10	0	0	30
港								
南	0	0	0	0				0
守山	0	0	12	0				12
緑	17	0	1	2				20
名東	3	0	0	1				4
天白	6	2	0	1				9
合計	138	79	46	44	17	0	0	324
前月	120	75	39	56	12	2	0	304
前月比	1.15	1.05	1.18	0.79	1.42	0.00	-	1.07
昨年同月	132	74	48	50	16	0	0	320

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

6月分患者報告数	
週報分	13,037
月報分	324
合 計	13,361

令和7年 6 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和7年 6 月	令和7年計	令和6年計	令和5年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	痘そう	－	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－
二類感染症	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H5N1)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H7N9)	－	－	－	－
三類感染症	コレラ	－	－	－	－
	細菌性赤痢	－	－	－	－
	腸管出血性大腸菌感染症	7 (3)	18 (7)	52 (15)	62 (13)
	腸チフス	－	－	－	－
	パラチフス	－	－	1	2 (1)
	合 計	7 (3)	18 (7)	53 (15)	64 (14)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和7年 6 月	令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	4 (1)	8 (1)	31 (6)	48 (6)
O26	－	－	5 (3)	4
O103	－	1 (1)	5 (1)	－
O111	1 (1)	2 (1)	2	－
O165	－	－	1	－
その他	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)
型 不 明	1	6 (3)	6 (4)	9 (6)
合 計	7 (3)	18 (7)	52 (15)	62 (13)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

6月

保健セン ター名	令和7年6月（※）			令和7年計（※）			令和6年計（※）			令和5年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	7	2	0	19	7	2	21	10	5
東	0	0	1	5	2	2	10	6	2	4	1	6
北	3	2	0	9	6	0	21	9	6	18	8	14
西	1	0	0	6	1	0	8	3	10	12	5	11
中村	2	1	1	7	1	6	22	3	7	21	4	10
中	1	0	0	5	2	5	16	7	6	21	9	12
昭和	0	0	0	5	1	4	19	5	2	13	2	6
瑞穂	0	0	0	2	1	0	8	2	2	8	2	3
熱田	1	0	0	2	0	1	10	2	3	3	1	4
中川	4	0	0	16	4	3	26	13	20	31	8	20
港	4	2	0	11	3	2	20	5	7	23	5	10
南	3	2	0	10	6	1	16	5	9	18	7	12
守山	0	0	0	8	0	0	26	11	5	21	12	11
緑	0	0	0	9	0	1	20	6	9	19	5	18
名東	2	2	0	7	5	0	10	4	4	10	4	7
天白	0	0	0	1	0	1	13	4	5	19	8	5
全市	21	9	2	110	34	26	264	92	99	262	91	154

※令和6・7年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和7年6月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	1		4	4	5
A型肝炎	1		1	1	1
エムボックス	-		-	1	3
ジカウイルス感染症	-		-	3	-
チクングニア熱	-		1	1	-
つつが虫病	-		-	1	1
デング熱	-		-	4	6
日本紅斑熱	1		1	3	1
マラリア	-		1	1	1
レジオネラ症	7		24	48	32
レプトスピラ症	-		-	-	1
合 計	10		32	67	51

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和7年6月		令和7年計	令和6年計	令和5年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	1		5	20	13
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	-	-	B型： 2 - -	- - その他： 1	B型： 2 - その他： 3
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		12	65	53
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	1	-
急性脳炎※	1		2	15	17
クロイツフェルト・ヤコブ病	1		3	-	3
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		15	46	22
後天性免疫不全症候群	3	無症候性キャリア： 2 AIDS： 1 -	無症候性キャリア： 11 AIDS： 4 その他： 2	無症候性キャリア： 39 AIDS： 17 その他： 1	無症候性キャリア： 55 AIDS： 20 -
ジアルジア症	-		-	1	-
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4		17	16	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		2	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症	3		62	82	54
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	1		10	9	8
梅毒	33	早期顕症梅毒： 25 - - 無症候梅毒： 8	早期顕症梅毒： 171 晩期顕症梅毒： 3 - 無症候梅毒： 82	早期顕症梅毒： 315 晩期顕症梅毒： 9 - 無症候梅毒： 143	早期顕症梅毒： 333 晩期顕症梅毒： 4 先天梅毒： 5 無症候梅毒： 126
播種性クリプトコックス症	-		1	1	1
破傷風	1		1	-	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	116		294	35	16
麻しん	-		5	2	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-		1	-	-
合 計	166		705	819	751

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 （7 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 （5 疾病）	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 （44 疾病）	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 （全数：24 疾病） （定点：27 疾病）	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 （4 疾病）	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

（令和 7 年 6 月 30 日時点）